

「アレルギーの臨床に寄せる」 - 796 -
【矢追インパクト療法】胆摘後の胃腸機能
回復・腹壁癒痕を収縮させた1例

東京渋谷 山脇診療所

山脇 昂

30代後半の太った女性が来院された。薬剤師さんだった。何かアレルギーの事を相談に来院されたのですが、既往症を聞くと、9年前に胆石で胆嚢摘除術をうけていると言う。

お腹を見せてもらうと、太鼓腹に見事に右季肋部下に斜めに手術の痕が盛り上がり綱のようであり、ドレーンを挿入したところは綱の結び目のように盛り上がっていた。そして食事を摂ると直ぐ排便感を催し、トイレに駆け込み、オシッコとも下痢便とも区別付かないものが一挙に排出された。そのような状態が食事のたびに9年間続いたという。“矢追インパクト療法”を両前腕に3個ずつ6個やった。1回目のその日からウンチと排尿が見事に別れ、良いウンチが出るようになった。そんなもの治ると思っていないから、その時の腹壁の盛り上がった癒痕の写真は撮っていない。3～4回で腹壁癒痕はどんどん縮小した。その時の写真は撮ってある。その患者さんはその変化に余りにも驚いたのか、ある日診察室の前で、〈先生!〉と言ったきり、入ってこなくなった。その後来院なくなった。1年後位に来院された時の腹壁が綺麗になった時の写真も撮ってある。ご興味あれば『山脇診療所 検索』していただきたい。思うに腹部内では手術による癒着障害で、ある部分は蠕動運動が束縛され、癒着を免れた部分の蠕動運動が亢進するなど、不規則な、不自然な状態になっていたのではないか。その癒着が解放され、自然な蠕動運動に戻ったものと思う。腹壁の盛り上がった癒痕(ケロイド)の形成は未熟な肉芽組織が過剰に形成され、そこで停止している状態なのではないか。それが矢追インパクト刺激で本来の皮膚に正常化されていくのだろう。“矢追インパクト療法”は皮内注射で滲みる痛さとそれが広がってゆくのが解かります。この滲みて広がるというのが神経軸索反射で

あり、エネルギーを消費し、抗酸化作用であり、錆(老化)を防ぎ、若返り作用をもたらします。体は温かくなります。だから変化するのだと思います。

普通のご婦人とかご老人等の怠けている腸の蠕動を亢進させ、便秘を解消させるには、数個腹壁に皮内注射すると、注射をしている最中から蠕動運動が高まり、その音が術者にも聞こえるようになります。この方法を使用すれば、腹部手術直後からの癒着障害の防止、便秘の解消など色々な方面に応用できるのではないかと思います。昨今腸内フローラが叫ばれていますが、その形成にも役立つと思います。又癒痕形成の予防にも、手術的でない自然な治療にも役立つと思います。例えば緑内障は目の中を洗浄する液が循環しているある部分が肉芽等で閉鎖又は狭窄により流れなくなり、眼圧が上がるのであれば、その肉芽は“矢追インパクト療法”により縮小或いは消失します。緑内障の効果的な治療法になります。目にはその他色々な病気に効きますが、次回へと譲ります。

“矢追インパクト療法”は現に行われている減感作療法 Hyposensitization をより安全、安価、簡単、エコに、比較的速効で優れた効果を發揮する独自の治療法として矢追博美先生が工夫改善したアトピー性皮膚炎・アレルギー性鼻炎・喘息の治療法であります。このようなアレルギーとは関係ないような疾患にも良く効きます。矢追博美先生は人種、老若男女、病気の種類、重軽、急緩にかかわらず、大変有効な画期的治療法を創始したと断言しています。YIT (Yaoi Impact Therapy) を創始してから30年経過します。私は20年前から色々な疾患にYITを駆使しています。私自身通年性アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎、喘息に悩みましたが、今はほとんど解決しています。こんな経験もあります。靴擦れ等から起こる右踵部無菌性アキレス腱周囲炎になりました。痛くって痛くって歩けません。治療法はシブシブくらいしかありません。長期間かかります。6か月は治りません。“矢追インパクト療法”をやると炎症や腫脹はすぐ治まります。